

丸山眞男文庫について

丸山眞男文庫は、東京女子大学の図書館内にあります。20世紀を代表する知識人の一人、丸山眞男（まるやま・まさお、1914～1996）が遺した蔵書や様々の草稿などを所蔵しています。これは、1998年9月に、丸山家から東京女子大学に寄贈されたものです（2011年には、丸山の著作の一切の著作権も遺贈されました）。



所蔵資料の内容は、約 18,000 冊の図書（その内、約 5,800 冊には、丸山自身による書き込みがあります）、約 6,200 件の草稿類、約 18,000 冊の雑誌、そして丸山に宛てられた書簡類（段ボール 26 箱分）などです。さらに、丸山が深くかかわった「平和問題談話会」関係資料（吉野源三郎の整理による）も、岩波書店から寄贈され、丸山文庫の所蔵となっています。まさに、丸山の学問と思想の全体像を知ることができる網羅的な構成です。

丸山眞男文庫は、所蔵資料の調査・整理を続け、まず 2005 年に、書き込みなどの無い図書を、開架図書として東京女子大学図書館内で公開しました。ついで、草稿類（2009 年）、閉架図書（2010 年）、雑誌（2012 年）、楽譜類（2014～2015 年）を、順次公開してきました。

この内、図書は、インターネット上に表現した「丸山眞男文庫バーチャル書庫」（2015 年公開）によって、丸山宅での配架の様子を閲覧できるようになりました。閲覧すると、まるで、東京女子大学のすぐ近所にあった丸山の書斎にもぐりこんで、本棚を眺めているような気分になります。また、草稿類は、「丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ」（2015 年公開）によって、文庫を訪れなくとも、インターネット上で閲覧できるようになりました。

丸山に宛てられた膨大な数の書簡などについては、現在、なお調査中です。

本文庫がさらに多くの方に利用され、丸山眞男の学問と思想を今後活かしていくことに貢献できるよう、今後も努力してまいります。

丸山眞男文庫顧問 渡辺 浩（東京大学名誉教授・日本学士院会員）

加藤周一文庫について

加藤周一文庫は、2010年に加藤の御遺族から寄贈された書籍・雑誌類と手稿ノート・資料類とを所蔵しています。立命館関係者だけではなく、一定の手続きをしていただければ、広く市民も閲覧することができます。

〔書籍・雑誌類〕蔵書数は約20,000点に上ります。そのうち約12,000点は開架式閲覧室にて、自由に閲覧、その一部は貸出を受けることもできます。約8,000点は閉架式書庫にて収蔵、一定の条件がありますが、請求によって閲覧が可能です（貸出不可）。開架式の蔵書は3つのグループに分けられます。

①加藤の著書と加藤の著作が載る書籍・雑誌。②加藤について書かれた書籍・雑誌。③加藤が所蔵し利用した参考書籍・雑誌類。①②については、完全に揃っていることが望ましく、現在も補充作業を続けております。

〔手稿ノート・資料類〕「手稿ノート」、来信、写真、手帳、新聞切り抜き、地図などの資料類を収めています。「手稿ノート」の総頁数は10,000頁を超え、大半は加藤自身によって主題別にファイリングされ、一部は加藤周一研究センターのスタッフがファイリングしました（ファイル数は1,000超。両者は区別されています）。これらの「手稿ノート」は主として執筆のためにとられ、加藤の著作や思想を精しく研究するためには、欠かすことができない重要な資料です。その他の資料類はまだ整理が終わっていません。

〔デジタルアーカイブ〕「手稿ノート」は、管理保存上、現物をお見せすることができません。そこで「手稿ノート」のデジタルアーカイブ化を進め、インターネット上で公開しています。このアーカイブは「キーワード」検索の機能をもっています。すでに公開されたノートは2023年3月現在、『青春ノート』、『Journal Intime』（1948年～51年の日記）、日本文学史関連のノート、『Notes on Arts』『1968 1969』『詩作ノート』など43冊にのぼり、今後も公開するノートを増やして参る所存です。

加藤周一の研究と精神とを引き継ぐために、加藤周一文庫が少しでも資するよう、一層の努力を傾けて参ります。

立命館大学図書館長 重森 臣広（立命館大学教授）

